

第四次愛知県教育振興基本計画（仮称）の基本理念等についての意見 とりまとめ

1 第四次愛知県教育振興基本計画（仮称）の基本理念について

現行計画（第三次計画）の基本理念は、教育の普遍的な部分でありますので、その大枠については、次期計画（第四次計画）にも継承してはどうかと考えていますが、これについて御意見をお聞かせください。

- 掲げる基本理念は、教育における不易の部分で、変更すべきではないと考える。前回までの理念を踏襲して、より実効性のあるものにしていく必要がある。
- 「あいちの人間像」という表現に違和感があります。県ごとに、違う人間像があるのでしょうか。普遍的にあるべき人間像を描くのではなく、居住する県に特有の人間にならなければいけないのでしょうか。（「あいちの教育ビジョン」なので、仕方がないとは思いますが。）理念の内容については継承することでよいと思います。
- 継承の事由はもっともで賛同できるが、文言に「あいちの人間像」が含まれ、この点については、「型はめ」を問題提起した層との意見調整が必要ではないか。
ただし、表現をどう受け止めるかは受け手側にゆだねられており、どの表現を選んだところで、ある受け手からの一定の批判は起こるという腹くくりは必要。
- 「社会に役立つこと」と「人間像」を結びつけることにより、企業が求める「人材育成」の色合いが濃くなっている。そこから、「競争と管理」「選択と集中」の方向性が透けて見える。学校教育の目的は「人格の完成」である。
次期計画は、教育条件整備に力点をおいたものにしていただきたい。
- 基本理念は、教育の不易の部分を文言化しており、継承すべきと考える。
- 基本理念の大枠の継承には異論はありません。ただし、「自らを高めること」と「社会に役立つこと」は大切な理念であることは確かですが、時代を超えた普遍性を有しているかは、再検討する必要があります。むしろこれらは、産業の発展を前提とした経済成長を支える人材に求められてきた理念のように感じられます。自らを高めようとする個人の努力を互いに支え合うような社会の実現にむけた教育の理念が、今日には求められています。
- 自らを高めること、社会に役立つことの2点は時代が変化しても揺るがないものです。継承することに賛成します。
- 継承に異存ありません。
- ぜひ継承すべきと考えます。
中でも、「共に生きる」を一番初めに掲げている点は、愛知県が国籍や文化、障害の有無や性的志向等に関わらず、全ての人の人権を尊重し共生社会を実現するだけでなく、その成熟を目指していることが明快に伝わると感じています。
- 基本的には継承でよいと思いますが、「社会に役立つこと」は、国の教育振興計画にもあるように「社会の担い手となること」という表現に変えてはどうでしょうか？「役立つ人」「役立たない人」というレッテル貼りのような見方が生まれる危険性もあるので。社会・あいちを創造する人間が求められているのではないのでしょうか。
- 会議でもお話をさせていただいたとおり、基本理念の大枠については、継承していくことで賛成です。

2 「めざす『あいちの人間像』」について

- ①② 多様性を尊重する社会情勢の中で、事務局としては、「人間像」という名称を、例えば「教育の目標」などに変更することも検討したいと考えておりますが、これについて御意見をお聞かせください。

<人間像」の名称は、変更しない方がよい。>

- 学校現場においても、「めざす児童・生徒像」といった使い方を。型にはめるといったとらえではなく、あるべき姿、ありたい姿としてのイメージというとらえとして、「人間像」でよいと考える。
- 現時点で、他に適当な文言が浮かばない。他の方々の御意見を伺ったうえで適当な文言があれば、変更することに頭から反対するつもりはない。
- ここは慎重な検討を要します。

昭和 38 年の中教審の諮問「期待される人間像」に対する論争など、「人間像」を規定することをめぐる議論が展開されてきました。国家や社会にとって都合の良い人間像が固定的に示されるのであれば、多様性の観点から望ましくありません。ただし、現在でも「人材養成の目的」「人材像」という用語が政策や制度で多用され、「教育＝人材養成」と矮小化される懸念もあります。

これに対して、教育の原点を照らすために、「人材養成」よりも包括的で普遍的な概念である「人間形成」を基本理念に掲げ、あえて「人間像」を示すことも必要だと考えています。もちろんそれは、時代や地域を超えた豊かな「人間観」に裏付けされていなければならず、また多様性を尊重する社会情勢の変化にも敏感に応じる必要があります。

「人間像」を具体的にどのような内容として示すかにおいて、我々の「人間観」が試されています。「豊かな人間観」を背景に、「豊かな人間像」を示していくことが望ましいと考えます。文章として示すことの弊害を自覚しつつ、一人一人の個性・多様性や他者との違いを重視する教育の姿勢を、「人間像」の内容で示していくことがよいと考えます。「人間像」については様々な考えがあり、完全な一致は難しいかもしれません。しかしだからこそ、合意を目指した真摯な議論を県民で行なっていくことが大切です。たとえ、言葉を「教育の目標」とかえたとしても、想定されている「人間像」が具体化されていなければ、ビジョンの共有には至らないといえます。

- 「像」は辞書で調べてみると、「思い描いた姿、あり方」です。まさに、めざすあいちの人間の姿を示していることを表すのですから、変更は必要ないと考えます。
- 変更しない方がよい。
- 人の生涯の中で、限られた時間をいかに心豊かに過ごすことができるかは、不易のテーマと考えます。そのためには、学校教育の視点だけでなく家庭での教育や、生涯学習を社会がどう支えるかといった視点を重ね合わせて考える必要があります。そうした意味で、「めざす『あいちの人間像』」という広義に解釈できる名称が基本理念で謳われていることに賛同します。
- めざす『あいちの人間像』は、やはり普遍性の根幹をなすところ。現行計画を継承していく立場なので、教育においてめざしていくところの人格形成と社会性の育成においては、現行計画と何ら変える必要はないと考えます。

< 「人間像」の名称は、変更した方がよい。 >

- 理由は、1. に書いたものと同じです。普遍的な「人間像」を追求するのではなく、県ごとに異なる人間像を追求することには違和感があります。私は神奈川県の出身ですが、「神奈川の人間像」を具現化しようと思って生きてきたことは一度もありません。「教育の目標」「教育がめざす姿」等、普通の表現でよいのではないのでしょうか。
- 問題提起をした層への配慮として、「よりよい表現があれば変更してもよい」というのが率直な意見である。「型はめ」という印象は「人間像」と「めざす」がセットになって醸し出されているように思う。セットになると、みんなで「めざす」(＝主語は県民)と読め、強制圧力と感じる受け手がいるかもしれない。基本理念で“「あいちの人間像」の実現”と唱っているのだから、「めざす」を削除し「あいちの人間像」にするか、「めざす」を「実現したい」に変えて、「県(または教育委員会)」を主語に見えるようにすると、抵抗が減るやもしれない。
- 本計画は教育条件整備に力点を置くべきで、「人間像」の提示をすべきではない。「教育の目標」とすることも一案である。
2014年7月17日の地方教育行政法改正についての文科省通知によれば「大綱」の主たる記載事項は「学校の耐震化、少人数教育の推進、総合的な放課後対策・・・など、予算や条例等の地方公共団体の長の有する権限にかかる事項についての目標や根本となる方針」とされており、教育内容への踏み込みは抑制的であるべきと考える。
- 事務局案(教育目標)でよいかと思えます。
- 「人間像」は、人それぞれ個性や特性があるので多様であってよいと思うので、教育施策の計画においては教育の目標として掲げるほうがよいと思えます。

② 現行計画の「めざす『あいちの人間像』」について、社会情勢の変化等を踏まえた表現の見直しや、新たに付け加えるべき方向性など、御意見がありましたら御記入ください。

	御意見
<p>【共に生きる】 自他の命を大切に し、多様な人々の 存在を尊重して生 きることのできる 人間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多様性の中には、「人種の違い」、「性的志向の違い」、「年齢の違い」等もあると思います。特に、「年齢の違い」は、人間誰でも、自分自身がマイノリティになり得るという自覚をもってもらう上で大切かと思いません。 ○ 強いていえば、重要な概念について表現が混在している点が気になる。具体的には、太字の解説では「多様な人々の存在」、細字では「多様な存在」となっている。かりに細字を補足解説と位置付けるのならば、太字のほうが「多様な人々」または「多様な存在」で、細字はより丁寧に「多様な人々の存在」とするのが自然に思われる。さらに、細字で噛みくたく意図があれば「多様な特徴や価値観を持った人々の存在」になるだろうか。 ○ 国籍の違い、文化や生活習慣の違い、障害の有無、性別等による差別を許さないというメッセージを含めたい。 自他の命を大切にすることに関連して、「世界と日本の平和を希求」と

	<p>いった言葉も含めたい。</p> <p>「誰もが平和のうちに生存する権利を有する」というメッセージも含めたい。</p> <p>ジェンダー平等教育の推進を盛り込みたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史的に言えば、感染症の流行のたびに差別の問題が惹起してきた。様々な課題を自らの問題としてとらえさせることが、ひいては差別の解消をはかることにつながる、との視点からの記述が必要だと考える。 ○ これは、このまま活かしていただきたいと考えます。 ○ 「多様な人々の存在を尊重する」事例として、本文の中に「多様な性」も含まれていることを伝える文言が必要かもしれません。パブリックコメントを求めたときに、そのような声が入るように思います。 ○ 「多様な人々の存在」とありますが、人間一人の中にも様々な面がある、つまり一人の個人が多様性をもつ存在だと捉えていますので、「一人ひとりの多様性を尊重して～」というのはいかがでしょうか。 ○ 過不足はありません。 ○ 現行計画を継承する立場で言うところの5つは3次から4次への連続性という視点で大きく変えないほうが良いと考えます。 <p>共に生きるでは、4月から実施しています新学習指導要領でも、これからの学校の在り方に述べています。これでよいと考えます。</p>
<p>【自分を生かす】 互いに切磋琢磨し、自らの力を社会に生かすことのできる人間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 【自分を生かす】と内容とのつながりが分かりづらい。例えば、【社会に貢献する】【人のために】など、理念と内容がつながるようにするとよい。 ○ 「互いに切磋琢磨し」という箇所が、「共に生きる」ということを意味するのか、競争社会を生き抜く力を意味するのか、よくわかりません。「自分を生かす」という趣旨を考えると、他人を意識せず、自分らしく、のびのびと生きる、ということでもよいように思います。 ○ 自分を「生かす」のか「活かす」のか、どちらを選ぶのかには育成の哲学（方針）が現われると思う。県として「力（持ち味・能力・スキル等）」の研鑽を期待するのであれば、「自らの力」を「生かす」ではなく「活かす」になる。一方、自分という存在そのもの（自己）を「生かす」という趣旨であれば、「自らの力」ではなく「自ら」に修正すべきだろう。 <p>なお、第3次でもっとも議論が展開された「切磋琢磨」であるが、この表現を残された愛知県さんの意志をぜひ継承し、表現も残していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 現行計画6ページには、「アクティブ・ラーニングという学びの方法によって、課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学んでいくことが求められています」とある。「大綱」である本計画に、特定の指導方法を「求められています」と記述するのは不適當ではないか。 ○ 「協働」という言葉を明確に入れることはできないか。 ○ 「切磋琢磨」、「自らの力を社会に生かす」というのは見直したほうが良いと考えます。「切磋琢磨」だけでは、競争的な関係が強調されることになると思います。「自らの力を社会に生かす」では、社会の存在を個人の存在の前提としつつ、所与の社会に対して受身的に貢献することが求

	<p>めているように感じます。「互いの良さを生かしあって、よりよい社会の創造を求めて前向きに生きることのできる人間」としてはいかがでしょうか。</p> <p>あわせて、「自分を生かす」を、「個性を生かす」にしたらどうでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本文中のアクティブ・ラーニングは、やはり「主体的・対話的で深い学び」に文言を変えるべきだと思います。 ○ テーマとしては、「切磋琢磨」よりも「自己研鑽」のほうが適切な分類かと思います。 ○ 過不足はありません。 ○ 「切磋琢磨」に含まれているかもしれませんが、「協力し」あつてという言葉が入ったほうがよくないでしょうか。これからの社会は、つながり・連携・協働の中で個々の力を生かすことが重要になってくるのではないかと思います。子どもたちも親、おとなも、孤立していることが問題を生み出していると感じます。 ○ これでよい。
<p>【学び続ける】 生涯にわたって健やかな体と心をつちかい、学び続けることのできる人間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生涯ずっと勉強し続けなければいけないと思うと、プレッシャーに感じる子供もいるかもしれません。色々なことに好奇心をもち、挑戦する姿勢が大切、ということが伝わるような説明があるとよいと思います。 ○ 「さらなる成長」という文言があり、愛知県としての「成長」のイメージは明確なのか、共有されているのかが気になる。表現自体を変える必要はないが、一般的な用語としての「成長」を何気なく採用するのではなく、例えば、愛知県が考える「成長」とは「あいちの人間像」を実現に向かって研鑽すること…といったイメージの共有が先にあるべきだと思う。余談だが、私はユング心理学の説明が好きで、無意識のコンプレックスが意識化され、裏表のない統合された人格へと変容することを成長と考える。 ○ ……体と心をつちかい……の「つちかい」じゃ違和感を感じます。『基本的な取組の方向』には、「……体と心を育む教育……」とあるので、「体と心を育み……」でも良いのではないかと思います。 ○ 「生涯学習」の観点を含めることは適当である。 一方、学校現場では受験学力こそが価値を生み出すという一元的な価値観が存在している。学びの意味や有用性を感じられる教育が求められる。キャリア教育とも関連して、「受験学力」ととどまらない幅広い学びを通して「社会をつくっているのは私たちだ」といった主権者意識も獲得させたい。 ○ 「読書」が最も身近な学び続けるための手段である、というニュアンスを入れられないか。 ○ これは、このまま活かしていただきたいと考えます。 強いて言えば、「学び続ける」→「豊かに学び続ける」としてくださるのが良いと考えます。 ○ 時代の趨勢を示すのに、Society5.0の文言を入れることを考えたらどうでしょう。ますますIT化が進む世の中ですので、このあたりを強調

	<p>しての生涯学習を示すと良いと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 障害の重い方々の実態を踏まえますと、「健やかな体」という表現に違和感を覚えます。その一方で、健全な方々にとりましては、「体力づくり」「体力向上の推進」等は重要な取組となりますので悩ましいところです。 ○ これでよい。
<p>【あいちを創る】 あいちの伝統と文化、「ものづくりの精神」を継承し、新たな価値を生み出すことのできる人間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ある意味では、この文言の一部には「型はめ」を感じる。第3次の検討時にも、「ものづくり」に携わらない人々に疎外感を与えるといった意見を述べた記憶がある。細字の補足解説を読めば「ものづくり」に直接携わるのではなく、その「精神」を継承することだと理解できるが、すべての受け手がそこまで読み込むとは思えず、ぱっと読んで誤解がないよう改訂してもよいかもしれない。 Ex) 「ものづくりの精神」⇒「ものづくり」の精神／ものづくりに携わり⇒ものづくりに携わった先人を中心に＋「人々」トル等 ○ 「ものづくりの精神」の継承との文脈で、インターンシップやキャリア教育の充実が図られると思われる。キャリア教育の充実は必要であるが、「マナー習得」「体験活動」だけに偏ることなく、広い意味での「将来への準備教育」ととらえるべきである。特に「権利としてのキャリア教育」を付け加えたい。労働法など「働くルール」を学ぶ機会が現状では少ない。 ○ AIなどの最新技術の活用を含めたものづくりの重要性を訴えかけられないか。 ○ 継承するのは伝統と文化であり、精神は自分の生き方に生かしていくものであると考えます。 「あいちの伝統と文化を継承し、「ものづくりの精神」を生かして新たな価値を生み出すことのできる人間」としてはいかがでしょうか。 ○ 「ものづくりの精神」というのが、「製造業に就くための心構え」という一部の業種・作業を指しているように狭く捉えられないかと懸念します。詳細説明のところにも、そうではないことがわかるような説明を加えたほうがよいかと思います。 ○ 過不足はありません。 ○ これでよい。
<p>【世界にはばたく】 次代を展望し、世界に視野を広げ活動することのできる人間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 世界をまたにかけて愛知県内で活躍する人間をめざすのが本計画の趣旨に合うのではないか。そのように考えると、「はばたく」より「輝く」の方がよりよい。 ○ 「これからのあいちや世界を担っていく」という説明は、「日本」がぬけているように思いました。 ○ ここ数年で「グローバル」という言葉には手あかがつき、陳腐化しているのではないか。例えば、「SDGs（持続可能な開発目標の達成）をめざす社会において」などと改訂する必要があると思われる。 「気概」と「意欲」が併記されている点に違和感がある。「気概」は成し遂げようとする「意志」「意欲」であり、「意欲」の下位概念であり、

	<p>意味が重なる。例えば、「熱意」と「気概」とか、「気概」と「主体性」等、意味の異なる語句を採用したほうが、より力強さを表現できよう。</p> <p>○ 【共に生きる】でも書いたが、国籍の違いなどでの差別を許さないということが肝要。「ヘイトスピーチ」等がSNS上で流布している現状ではなおさら。そのためにも近現代の歴史教育などが重要となる。</p> <p>増加している外国人児童・生徒の日本語教育の充実のために、少人数学級や少人数指導の予算確保と、地域における日本語学習の支援も必要。</p> <p>外国や他県への進路を推奨するのであれば、教育費負担を軽減するメッセージを盛り込みたい。</p> <p>○ これは、このまま活かしていただきたいと考えます。</p> <p>強いて言えば、「世界に視野を広げ活動する」→「世界に視野を広げ生き生きと活動する」としてくださるのが良いと考えます。</p> <p>○ コロナ禍で学びの場に変化が現れています。働く場にも変化が現れています。つまり、どこにいても学び、働くことができる時代になりつつあります。ますます世界とつながることが容易になってきたことを記述してはどうでしょう。</p> <p>○ ここでの「世界」が、外国・海外を示しているようだと、数十年前の国際化施策のように感じます。現代はインターネットに代表されるような、国境のないグローバル社会であることから、「日本から世界へ」ではなく、「日本も世界の中の一つであり、日本で活躍すること＝世界・地球で活躍することである」と認識を改める必要があると思います。またそれによって、海外から日本に来て学ぶ子どもたちが日本で活躍することも含まれると思います。</p> <p>○ 過不足はありません。</p> <p>○ これでよい。</p>
--	---

3 「基本的な取組の方向」について

現行計画では、「あいちの人間像」を実現するための五つの「基本的な取組の方向」を定めています。これについて追加・修正等の御意見がありましたら御記入ください。

<p>◇現行計画の「基本的な取組の方向」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 個に応じたきめ細かな教育を充実させ、一人一人の個性や可能性を伸ばします 2 人としての在り方・生き方を考える教育を充実させ、道徳性・社会性を育みます 3 健やかな体と心を育む教育を充実させ、たくましく生きる力を育みます 4 未来への学びを充実させ、あいちを担う人材を育成します 5 学びがいのある魅力的な教育環境づくりを進めます

○基本理念との対応関係がよくわかりませんでした。

○ 1 最重点項目であるが、この5年での取り組みは、不十分であるとする。少人数学級の充実等をもってきめ細かな教育ではないか。「きめ細かな」とするのであれば、具体的な施策を講じるべきだと考える。

5 「学びがいのある」という言葉に違和感をおぼえる。「教育環境を充実させ」、とよ

りイメージしやすい文言に修正すべきであると考え。他4つの文言も「○○させ、▲▲します」となっているため、合わせる形にしてはどうか。

- 1. 教育を充実させ⇒教育を徹底し
 - 2. 教育を充実させ⇒教育を強化し 道徳性・社会性⇒倫理観・人間観・社会性
 - 4. 未来への学びを充実させ⇒未来への学びを創出し
 - 5. 魅力的な⇒先進的な
- 5(26)に含まれる「ICT教育の促進」が検討される中、ICTのみならず他項目についても「先進的な」取組みを盛り込むべきではないか。

- 2の説明文を以下のようにしたらどうか。

「発達段階に応じて、命を大切にする心や他人を思いやる心、人権を尊重し多様な価値観を重んじる姿勢を育て、社会の一員として様々な人々と手を携えて生きていける、豊かな人間性を育みます」

4の「あいちを担う人材」づくりが、外国語教育や理数教育に力点を置きすぎることにより、一部のエリート養成とならないか危惧する。現行の「高等学校教育推進実施計画」のもとでも、「ものづくり愛知」を支える「人材育成」の観点が含まれた学校開設や学科改編となっている。また、一面的な分析による総合学科の拡大や、安易な普通科コースの新設などの問題もある。

子どもたちが等しく学べる教育環境、ゆとりある教育環境の整備など一人ひとりを大切にする教育の推進を求める。

- ここでなくてもよいが、「次代を担う教職員の確保」について、もう少し大きく扱われるようにすべきである。
- 学び合いの視点が弱いと感じます。「仲間と共に育ち合う」ことを加えるのが良いと考えます。
- 1 個に応じた → 個が生きる ※個が生きる方が広い範囲と考えるので。
4 未来への学び → 魅力ある言葉だが、何を示しているかよくわかりません。ところが、代案は浮かばず。引き続き考えます。
本文の中で、キャリア教育は、小学校、中学校・・・とありますが、幼児教育から視野にいれるべきです。
5 学びがいのある → 学びがいがある、また働き甲斐がある 教職員の視点は必要ないでしょうか？この時代だからこそと思いました。
- 4の「あいちを担う」が、単に愛知県内に暮らし働くという意味になってしまうことと、前述の「世界にはばたく」の捉え方との整合性をつける必要があると思います。
- 過不足はありません。
- これでよいと考えます。

「あいちの学び」には、キャリア教育の視点が必要であると考えます。発達段階の中で、進路選択と併せて、地域産業連携、企業民間連携へと丁寧な接続と連携で、「あいち」ならではの教育において特色があってもよいと考えます。

4 その他

① 現行計画では、「基本的な取組を推進するに当たっての四つの視点」、「28の取組の柱と施策の展開」を定めていますが、これについて追加・修正等の御意見がありましたら御記入ください。

○ 「基本理念」と「取組みの方向」と「四つの視点」との関係性がよくわかりませんでした。「四つの視点」のうち、(1)~(3)は連携体制の構築の話で、(4)だけが理念と重なっているように思います。

○ 四つの視点の第一の視点は、生きる力を育む家庭・地域・学校の連携強化とあるが、取り組みを推進する一番最初の項目が連携をうたっていることに違和感がある。県や県教委としての取り組みの具体を示してから、連携をはかるのであれば理解ができるが、最初の項目として県や県教委として取り組む具体が示されていないことで、県や県教委が発信力や主体性をもって取り組むかが不安になる。県や県教委の努力目標や方針が第一の項目にあった方がよい。

第二の視点は、たての連続性については、ふれているものの、横のつながりについての言及が弱いように感じる。子ども一人ひとりのキャリアを考えた上で、横のつながりを強めていく取り組みについても明記してほしい。

○ 4つの視点に加える新たな視点は、今のところ、思いつかない。

が、(1)~(3)までの視点に記述されている●の項目は、実践の方向性や手段レベルも彷彿とさせる表現となっている。一方で、(4)については「すべての県民が努力していく必要性」という表現に留まり、誰がどのように実践するかイメージをより明らかに記述すべきではないか。

○ 古より教育の不易と流行と言われていますが、何となく流行の方を大切にしているように感じます。

全くの個人的見解ですが、「外国語教育の推進」「ICT教育」などは、それほど重要なのかなと思います。「日本語教育」「生き方の教育」はずっと大事だと思います。「生き方」に関して項目立てであるので良いとは思いますが。

十分読み込んでないので、的確ではないかと思いますが、様々な取り組みをする時、自分理解といいますか、現状把握といいますか「メタ認知能力の育成」がまず大切だと思います。「基本的な取組の方向」の(2)に記載するのかどうか分かりませんが、メタ認知に関する記述が入ると良いかなと思います。

○ 23②読書に親しむ態度の育成 →本に親しむ機会の充実の方がよい。

25 多忙化解消への支援⑥教職員の多忙化解消に向けた取組の推進

→部活動ガイドラインの実効性の確保

→社会体育に向けた仕組みづくり

→勤務時間外における補習、模試、検定の負担軽減

→官制研修の縮減

26 学校施設・設備の充実⑤特別な支援を要する子どもたちのための教育環境の充実

→教室不足を解消する。特別支援学校の過大・過密を解消する。

→実態にあった重複認定

→障害種別の学校を増設する。

→特別支援学校の設置基準の策定を国に求める。

- 四つの視点や28の取組の柱は、細かな施策提案がなされた後に、組みなおせばよいと考える。

【提案したい細かな施策】

「ICTによる外国人教育の充実」「普通科の特色化」の方向性が欲しい。

「新たな生活様式」を踏まえた集団活動の在り方の検討」の必要性を感じる。

「オンライン教育」と「対面教育」とのバランスを図る視点からの施策の記述があるとよい。

「ICT化による会議（内部及び外部）の効率化、縮減と、それによる幼児児童生徒への指導の充実」が入れられないか。

「県立学校の魅力化」に結びつく施策をさらにちりばめられないか。

- 教師の働き方改革は、独立した項目にするのが良いでしょうが、一方では「学校教育の魅力の向上」というまとまりで考えても良いと思います。

公立高校志願者を増やすこと、教員志望者を増やすこと、不登校や学校不適応を減らすこと、建物の機能改修を進めることなど、今真剣に取り組まなければ、学校は時代遅れのものになってしまう危険があります。情報を伝達するだけであれば、ICTに代替されます。「今、ここにいる、わたしたちの学び」を目指し学校教育の質を抜本的に転換する必要があります。児童・生徒にとって居心地がよくやる気ができる学習環境をつくり、教師にとってやりがいのある職場環境をつくっていくことが大切です。県民運動として「学校教育の魅力向上」を掲げ、「学ぶこと」「教えること」の価値を高める努力があつて良いと考えます。

また、Society5.0を迎え、社会生活における労働の意味も変容することが予想されます。生涯学習の理念の真価が試される時代に突入することになると予想されます。「勉強嫌い」「運動嫌い」を学校教育で作らないことが、これからの社会が豊かになるか、殺伐としたものになるか、分かれ目になると思います。

- 「情報教育の充実」、「ICT教育（の充実）」のいずれも言葉を精査する必要があると思います。文部科学省の指針などを参考にして考えてみます。

- 四つの視点の内、「(4) 国籍・言葉・文化等の違いを越えた多様性の尊重」におきまして、1行目の途中にあります「国籍、言葉、文化、」に続けて「障害の有無」という文言が追記されますと、「めざす『あいちの人間像』」における表記との整合性が生まれるのでよいと感じます。

- 2 道徳性・社会性に、自己肯定感を付け加えてはどうでしょうか。今までも指標に入っていましたし、道徳性や社会性は自己肯定感があつてこそ実効性のあるものとなると思います。しかし、3の中の施策に入れたほうがよいようでしたら、それでもよいかもしれません。

- 視点として、子どもの参画や市民の主体性が大事だと考えます（追加できたら）。当事者が相談したり、意見を表明したり、自ら解決方法を考えたり提案できる場や仕組みを広げていくことが必要ではないでしょうか。そのことによって、自分が大切にされると感じ、自己肯定感や郷土への愛着が育まれるものと考えます。（関連して、「主権者教育」は、「社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決力を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を身に付けさせる」とされています。）

取組の1に入っている、少人数教育の環境の整備や、貧困状態にある子どもたちへの支援の充実は、5の「教育環境づくり」にも入ると思いますが、どちらがよいのでしょうか

か。1学級の児童生徒人数を減らすことや、経済的困窮に対する施策は、ますます重要になってきていると考えます。

- 基本的には、これでよいと考えます。更に、外国籍児童生徒の教育には、プレスクールなど学校の前段階の教育にもっと力点を置くことが必要に思います。

② 「ICT教育」、「外国人児童生徒への教育」、「学校における働き方改革」の他に重点的に取り組むべき課題等について、御意見がありましたら御記入ください。

- 学校における働き方改革については、部会で意見反映をする。
ICTについては、教育に用いる目的や効能をよく理解した上での使用が望ましい。ICTを使わされるにならないような具体的な施策を講じてほしい。また、ICTを整備することがスタートであり、整備後も管理・運営には、人的配置も必要であると考え

る。
外国人児童生徒への教育については、学校現場任せになっていることが多分にある。まず、県教委と文化局の連携をはかることを明記し、県全体として取り組むべき課題であり、責任をもって行うべきことであることを確認してほしい。

- 実効性ある「キャリア教育」への転換
「キャリア教育」は「職業教育」を包括しつつ「職業教育」を超え、「2. 人としての在り方・生き方を考える教育」で培うべき倫理観・人間観・社会性を基盤に、生涯にわたる「成長」への実践を促進し、進展させるものである。けれども、4.(18)の「施策の展開」の表現は総論的に見え、「職業教育」の延長線上と捉えられている印象がぬぐえない。特に①②は学校の努力によりほぼ達成されており、さらに踏み込んだ施策、実践が求められる段階にあると思える。

- 教育予算の増額、教職員定数の改善、少人数学級の実現
- 主体的・対話的で深い学びを実現するための校内研究・研修の充実
 - ・特別支援教育
 - ・チーム学校（教諭、養護教諭、栄養教育、事務、SC、SSW、地域住民など、多様なアクターの良さを生かし合う組織づくり）
 - ・いじめ・不登校の対応
 - ・生涯学習の振興
- 夜間中学の設置等、「さらなる教育機会の確保」に取り組む必要性があると思います。
- 現状を踏まえますと、まずこの3点が喫緊に取り組むべき重点課題であると考えます。
- 経済格差が広がるなか、「貧困状態にある子どもたちへの支援の充実」や、多くの人々に対して学費等についての経済的支援は重要かと思えます。

計画において、重点課題は、「主要テーマ」として表明するということでしょうか？

- 「ICT教育」
県民の理解が必要です。ランニングコストをはじめ、お金がとてまかかります。それ以上に今変えていかねばならないこととして、保護者や地域住民への説明も必要であると考えます。

「外国人児童生徒への教育」

先ほども書きましたように、どうしても、授業が「知」に偏りがちですので、プレスクールなど学校の前段階の教育が必要です。

「学校における働き方改革」

- ・部活動の問題を解決する必要があります。学校は「健全育成」地域社会でそれを越える「専門性」を担うなど、役割分担が必要です。
- ・少人数学級の実現が急務です。どう考えて今の40人定数の学級は、35人もしくは30人に変えていく必要があります。県独自の35人学級の継承と拡大が絶対に必要です。そのためのロードマップも4次で行うべきです。

③ その他、次期計画を策定するに当たって考慮すべき点など、御意見がありましたら御記入ください。

- 検討会議から部会までの期間が短すぎる。あいちの教育の大綱を作成する重要な取り組みであることから、出席委員が十分に準備をしたうえで、会に臨めるように、日程面での配慮をしてほしい。
- 多々ある項目のそれぞれに対し、多様な領域、視点からの意見も必要だろう。しかしながら、領域ごとの事情、背景、専門知識、動向がない中で、すべての項目に対して意見を述べるには限界を感じる。
できれば、専門家へのコンサルテーション（諮問）による見解、私見をおとりまとめ、報告いただけると有難い。専門家の見解について、各委員が第三者レベル、常識レベルで私見を述べ合えれば、建設的で実効性を伴う検討がなされるのではないか。
- とても難しいことですが、より活用される基本計画になるようにしたいです。
これまでそれほど活用しなかったことを自省しています。ちなみに、私は議会の際に、議員の方の難しい質問に答えるための資料として、常に議場に持って行っていました、未だその場で活用したことはありません。
- 教育条件整備に力点を置いた記述としていただきたい。特に、校舎の老朽化対策をお願いしたい。雨漏りや外壁・内壁の改修を求める声は多くの職場に根強くある。新設された愛知総合工科高のように、ノーマライゼーションや快適性・安全性にも配慮した魅力ある施設設備を目指してほしい。
今後の老朽化対策の計画については、具体的に年限や予算措置など具体性を伴ったものにしていく必要があると考える。
- 教育行政や財政の責任を明確にしながらも、自助や共助が教育の基本であることの理念の確認が必要だと思います。
- 先日の第1回検討会議に紙面で参加されました、愛知県都市教育長協議会代表の稲垣様から寄せられましたご意見の趣旨について、何らかの形で協議する時間があるとよいと感じます。
- 3次計画と4次計画は連続性の中で、策定されるべきです。今の子どもたちが置いて行かれることのないように、今の子どもたちもこれからの子どもたちとして、今までの3次の計画を包含する計画にすべきと考えます。